

校長つうしん **Mercury** マーキュリー

2020年8月18日 第88号 / 執筆・発行責任 校長 鈴木 恵一

### ◆能力格差とは

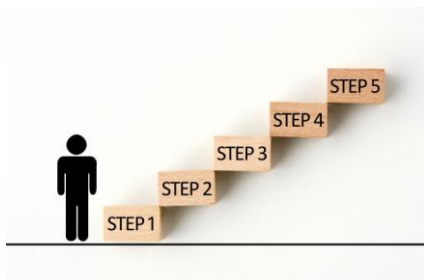


見学旅行では事前準備としてグループごとに自主研修の計画を立てます。学祭や体育大会でもクラスごとに計画を立て、各種の作業や練習に取り組みます。部活でも大会やコンクールへ向けて計画を立て練習に励みます。普段の学習は？検定試験への取り組みは？どこまで自主的に計画を立てているかは、人それぞれでしょうが、少なくとも他人任せでは目標には到達できません。上にあげたような取り組みは、学校生活がベースになっています。では、**あなた自身の人生設計は？ あなたのキャリアデザインは？**



最も重要な人生の計画はどこまで立てているでしょうか？目標はありますか？今は叶いそうもない夢でも構いません。突き詰めて言うなら、あなたには「<sup>こころざし</sup>志」がありますか？

私たちは日常的に限られた時間をやりくりしながら生きています。努力もします。手抜きだってあります。時々、失敗したり挫折したりして、へこたれそうになりながらも歩き続けます。学校のあらゆる活動を通じてそのトレーニングをしています。でも、せっかくトレーニングしていても、目的が明確でなければ、ただ辛いです。明確な目的地が決まっていれば、そこへ到達するために、今やらなければならないことは何かが見えてきます。そうすると、学校での取り組みも「意味ある学び」となります。失敗体験、成功体験のすべてが、かけがえない財産となります。それがあなたの人生の核を形づくりします。



**次ページへ**



教師（ティーチャー）はティーチングマシンではありません。あなたに近距離で寄り添うこともあれば、あなたが**自主的・主体的に思考し行動する**ために、ちょっと距離を置くことだってあります。社会との接点に近い高校生には、それをしなければいけないからです。もちろん、発達には個人差がありますから、個に応じた指導もあります。

私は、この通信を通じて「**思考力・判断力・表現力**」の必要性を訴えてきましたが、だからといって先生方が四六時中、思考力・判断力・表現力を呪文のように唱えて全生徒に全精力を注ぐわけにはいきません。学校でできることは限られています。教師が生徒一人ひとりの家に押しかけて監視するわけにはいきません。

では、時代の要請でもある思考力・判断力・表現力の基本である**読解力**や**数学的リテラシー**は、どのようにして身に付けられるのでしょうか。学校で訓練する場面はありますが、多くは**自ら努力して身に付けていく**ものです。

突き放された気分ですか？でも、これが真実です。これまでに、文学作品、歴史、評論、随筆などに関する読書体験はどれくらいありましたか？読解力を身に付けるために不可欠な原体験です。論理的な思考力・表現力の基礎である数学的リテラシーもまた、授業で学んだ数学や簿記をベースに独習して習得するものです。そうしたことに集中するためのきっかけを与えてもらったり、気付きを得るのが学校・教師の存在意義だともいえます。

こうした能力の個人間格差は、実は**学校外・授業外で効率よく時間をやりくりできるかどうか（環境づくり）**の格差だと言ってもよいでしょう。それが後々大きな格差になります。持って生まれた能力の話ではありません。定期考査直前の瞬発力よりも**日々の持続した学習**が大きくものをいいます。

